

2022年度 学術研究員一覧

所属	資格	氏名	種別	期間	国外研究:主たる目的国	国内研究:主たる研究先	研究概要	備考
法	教授	木原 淳	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	ドイツ	—	カントの法哲学、特に『法論』における共和主義・民主主義的な契機と、世界市民主義的な矛盾対立する契機をどう調和し、理解するべきかについて従来研究を重ねてきた。この世界市民主義のもつ歴史哲学的側面への研究を深めるため、近年は啓蒙を中心概念とする歴史哲学全般への考察を進めている。これを基礎的前提とした上で、ドイツではさらに人間の尊厳概念、人権、自由等の歴史的規定性とその発展形態について明らかにすることを主な研究課題とする。	
	教授	村田 大樹	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	ドイツ	関西大学	ドイツおよびヨーロッパにおける一般不当利得法の実情を調査する。とりわけ、近時ドイツおよびオーストリアで主張されつつある不当利得の分解説(不当利得法を解消し、個別の制度として規律することを主張する見解)の展開可能性を探る。他方で、従来は一般不当利得法を持たなかったイギリスに伝統的なドイツ不当利得論が影響を与えつつある動きにも着目したい。	
	准教授	白須 真理子	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	フランス、イギリス	—	父母の婚姻関係の有無と子の利益との関係について、親子関係の成立ないし親権行使という側面から研究したいと考えている。自然生殖による場合に限らず、生殖補助医療・未成年養子縁組による場合も視野に研究をおこなう。 なお、フランス法との比較研究の方法による。もともと、フランスでは、欧州人権条約ないし欧州人権裁判所の判例の影響も少なくないことから、同条約・判例の分析もおこなう予定である。また、フランス法への影響という観点から、イギリスでの文献収集もおこなう。	
	教授	中野 徹也	短期 (6カ月)	2022.4.1 ～ 2022.9.20	イギリス	—	竹島の国際法上の地位をめぐる諸問題のなかでも、特に議論の錯綜している地図と領域権原との関係を明らかにすることを目的として、内外の文献を収集・分析し、当該主題に関する論文(和文および欧文)を執筆する。	
文	教授	ジェイムズ・カーワン	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	オランダ、アメリカ	—	「想像力におけるテクノロジーの役割」及び「美学と文化」についての研究	
	教授	三村 尚彦	長期 (1年)	2022.4.1 ～ 2023.3.31	アメリカ、ベルギー、オーストラリア	関西大学、荒川+ギンズ東京事務所	現代美術家の荒川修作+マドリン・ギンズのコーデノジスト構想(芸術、科学、哲学の統合)の具体的な内容、特に彼らの身体論的哲学および彼らと交流があった心理学者・哲学者のEugene Gendlinとの思想的関係について、遺稿資料を手がかりにして研究を行う。	
	教授	若槻 健	長期 (1年)	2022.4.1 ～ 2023.3.31	アメリカ、中国	関西大学、大阪府高槻市、大阪府松原市、愛知県新城市、岐阜県可児市、奈良県御所市、北海道札幌市、北海道帯広市、高知県高知市、沖縄県那覇市	若者の社会参画(まちづくりや政治参加)を促す学校の実践および、NPOや行政の取り組みについて、特に社会経済文化的に不利な立場にあり声を上げにくい若者に焦点を当て、実践を掘り起こし、意味づけるとともに、実践のなかで若者をはじめとした人々や地域コミュニティがどのように変容していくのかという過程を明らかにする。また掘り起こした諸実践をアーカイブ化して教育関係者が相互参照可能にし、情報交換できるネットワークを構築する。	
	准教授	池田 智恵	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	イタリア	—	イタリアでは、1980年より中国からの新移民の増加により、中国人コミュニティが形成され、現在は中国籍の両親を持つイタリアで生まれ育った第二世代世代が多くおり、彼らによる文化的な創作も行われている。彼らが、イタリアにおいていかに文化的想像／創造を行っているかを、ローマを拠点におきながら、80年代以降のイタリアにおいて描かれる「中国」像の変遷も押さえながら、特にイタリアにおける中国学の研究者のインタビューなどからも調査・研究を行う。	
	教授	菅原 慶乃	短期 (6カ月)	2022.4.1 ～ 2022.9.20	香港、中国、台湾、アメリカ	関西大学、国立映画アーカイブ、早稲田大学、松竹大谷図書館、川喜多映画記念館	現在取り組んでいる関西大学アジア・オープン・リサーチ・センターでの研究「東アジアの劇場発行資料アーカイブ」をさらに推進するために、研究遂行上必要なデジタル・ヒューマニティーズの知識と技術(特にTEI)を修得し、現在運営しているデジタル・アーカイブを将来一層広く活用するための基礎を設計する。また、国内外の関連機関や研究プロジェクトと連携しながら、劇場発行資料を用いた研究方法の現状を把握し、将来の方向について考察する。	
准教授	リチャード・ドノバン	短期 (6カ月)	2022.9.21 ～ 2023.3.22	ニュージーランド	関西大学	文学翻訳プロジェクト 現代日本文学の作品を訳し、出版までのプロセスを翻訳学上で分析するプロジェクトの予定である。訳す作品は現在文春文庫と交渉中。主な論点:(1)翻訳の執筆前における編集者や作家との相談。(2)執筆中の翻訳学上の課題点。ファーストドラフトとセカンドドラフトの相違点。(3)執筆後の編集プロセス。(4)出版までの手順。		

2022年度 学術研究員一覧

所属	資格	氏名	種別	期間	国外研究:主たる目的国	国内研究:主たる研究先	研究概要	備考
経済	准教授	小嶋 健太	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	フランス、デンマーク	関西大学	日本の中央官僚の人事システムはいわゆる「遅い昇進」であるが、職務配置を通じてキャリアの早い段階から潜在的に選抜されているという事実が示されてきた。本研究期間で、その選抜が誰のどのような評価に基づいて行われており、それが官僚のインセンティブにどのような影響を与えているかを実証的に明らかにする。特に、官僚がもつ人的ネットワーク(同期入省者、直属の上司、政府間人事交流で得た人脈、関連の深い政治家)の変化に着目する。	
	准教授	藤中 裕二	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	スペイン、アメリカ	—	メカニズムデザインについての理論研究・実験研究を行う。近年、メカニズムデザイン研究の実用化が進んでおり、今後も様々な制度への応用が期待されている。申請者はメカニズムデザインの理論研究を行い、あらたな制度への応用可能性について検討する。また、理論に基づき設計した制度の実験研究も行い、制度の性能を検証する。	
商	教授	齊野 純子	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	イギリス	関西大学、愛知学院大学	現行の会計基準設定を支える基本思考を、概念研究を通じて、解明することを目的としている。考察の素材として、わが国の会計基準およびIFRS(国際財務報告基準)をとりあげ、それぞれが規定している収益認識、資産負債アプローチ、および複式簿記の計算構造をとりあげる。	
社会	教授	林 直保子	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	—	関西大学、神戸女学院大学、奈良大学、東洋大学、フェリス学院大学、青山学院大学、東京大学、九州大学、福岡大学、北海道大学	信頼する側の人間と信頼される側の人間の特性の統合的理解を目的としたディペンダビリティ心理学の知見を、人や組織についてのブランディングの観点から捉えなおし、信頼を概念間の連合として測定しようとする立場から、調査研究、および実験研究を行う。より具体的には、まず既存の潜在的態度測定法の改良を行う。その後、調査対象、測定概念を実験的に操作した実験を繰り返し行い、信頼とブランディングについての理論を構築する。	
	教授	村田 麻里子	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	オランダ、ドイツ、ポーランド、チェコ、ハンガリー、オーストリア、イギリス、フランス、イタリア、スペイン、ポルトガル、トルコ、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、アメリカ、ブラジル、台湾	—	21世紀のミュージアムにとって重要な以下の3つの動向について調査・考察することを目的とする。①ミュージアムにおける多文化共生の実現と課題 ②ミュージアムにおける記憶の継承の手法とその変容 ③ポスト・コロナ時代のミュージアムの在り方。グローバルな観光客の存在とその移動・消費は、いまやどの国家や地域にとっても重要な資源である。その中で、ミュージアムではこれまで以上に多文化への目配りを余儀なくされており、とりわけ欧米圏では旧植民地から訪れる観光客の対応や、彼らの文化にルーツのあるコレクションを保有・展示していることの是非が問われている。同時に、旧産産園や旧植民地にも新しいミュージアムが誕生しはじめ、そこには新しい歴史観と展示技法が盛り込まれている。(負の)記憶を継承し、現在に伝える装置として、今後ミュージアムはどのような存在になっていくのか。さらに、2020年1月以降の新型コロナウイルスによる空間や移動の制限が、物理的な空間メディアであるミュージアムの在り方にもたらした影響についてもあわせて注視していきたい。グローバリズムが引き起こしたこの現象が、今後のミュージアムに与える影響は計り知れないだろう。	
	教授	森田 雅也	長期 (1年)	2022.10.1 ～ 2023.9.20	ノルウェー、ハンガリー	関西大学	今後の働き方はコロナ禍以前とは大きく異なることが予想される。これまで、自律的な働き方の追究をライフワークとして、チーム作業方式、ワーク・ライフ・バランス、裁量労働制を研究テーマとして取り組んできたが、2020年までを1つの区切りとして、それまでの自律的な働き方のあり方や人的資源管理のあり方を体系的にまとめることを目指す。加えて、2020年以後の働き方の実態と人的資源管理の新たな動向を調査、分析するとともに、それらをもとにコロナ禍以降の新しい働き方について、従来の働き方との関係性から体系的にまとめる。	
	教授	保田 時男	長期 (1年)	2022.4.1 ～ 2023.3.31	—	関西大学、東京大学 他	申請者はこの10年ほどの間、新しい形式の家族調査の方法論に取り組んできた。大きく分けると、複数の家族成員との関係性を並列的に調査するダイアド集積型調査と、家族に関する時系列的変化のデータを効率的に収集する郵送回顧調査の2つである。いずれも科研等で有効なデータを豊富に得ることは成功したが、データを十分に活かした分析が行えていない。東京大学社会科学研究所での研究交流等を通して、集中的な分析で研究をまとめる予定である。	
	教授	永井 良和	短期 (6カ月)	2022.4.1 ～ 2022.9.20	—	関西大学、国立国会図書館、国立国会図書館関西館、外交史料館、大阪府立中央図書館、大阪府立中之島図書館、大阪府立中央図書館、国立民族学博物館、兵庫県立図書館、神戸市立図書館 他	大衆文化、とりわけ近代以降の日本の音楽とダンス、あるいはスポーツに関する領域における基礎資料の収集整理におおよそのめどが立ったので、それらを分析し研究成果を公表できるかたちにする。具体的には、(1)日本のタクシーダンスホールに関する歴史研究をとりまとめた書籍の出版、(2)音楽、ダンス、スポーツ関係の基本的な資料整理、図書館・博物館への資料寄託の準備、データベースの公開、特別展の開催などを行う。	

2022年度 学術研究員一覧

所属	資格	氏名	種別	期間	国外研究:主たる目的国	国内研究:主たる研究先	研究概要	備考
政策創造	准教授	五十嵐 元道	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	イギリス	関西大学、東京大空襲・戦災資料センター、国立国会図書館	武力紛争に関するデータの生成の構造と歴史についての研究を行う。これまで発表してきた論文を集めるだけでなく、新たな研究を加え、書下ろしとなる一冊の単著を作成し、刊行する計画である。そのために、基本的には関西大学の研究室を中心に研究活動を行うが、資料収集のために東京や海外の資料館などに足を運ぶ予定である。	
	准教授	森田 崇雄	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	アメリカ	—	米国の州法に基づく環境アセスメント手続において気候変動に係る影響がどのように考慮されているかを明らかにすることを目的とする。気候変動影響評価については、日米ともに行政実務および裁判実務における判断基準が形成途上にあるが、米国の一部州では近年に策定された行政指針の下で気候変動影響評価が実施され、その適否に係る司法判断も一定程度みられるようになってきた。米国の実務研究は、日本における気候変動影響評価に有益な示唆を与えると考えられる。	
	教授	内藤 友紀	短期 (6カ月)	2022.4.1 ～ 2022.9.20	イギリス	関西大学、日銀金融研究所 他	イギリスの中央銀行であるイングランド銀行の金融政策と、その日本経済(および日銀の金融政策)への影響について。	
外国語	被選考者なし							
人間健康	教授	弘原海 剛	長期 (1年)	2022.4.1 ～ 2023.3.31	ベルギー、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド	関西大学、筑波大学、日本体育大学、大阪公立大学、西九州大学、堺市市役所	【認知症予防研究】 ベルギーはじめ、北欧諸国での高齢者を対象とした、非薬物療法である「認知症予防運動」の現状について視察し情報収集を行う。 帰国後の10月以降は日本国内での認知症予防を実際に行っている現場を訪問し情報収集をする。また、国内開催の学会・研究会に参加し共同研究者との研究打合せや論文執筆を行う。	
	准教授	谷所 慶	短期 (6カ月)	2022.4.1 ～ 2022.9.20	アメリカ	—	レジャースポーツの指導に関する研究	
	教授	河端 隆志	短期 (1～3カ月)	2022.6.1 ～ 2022.8.31	—	信州大学、長野県松本市内の健康支援コミュニティ	これまで、加齢に伴う体力(筋力)の低下が生活習慣病の根本原因であると考え、中高齢者を対象に、インターバル速歩トレーニング(IWT)の実践研究を進め、その有効性について明らかにしてきた。そこで、今回はさらに一歩踏み込んで、ヒトの適応能力と加齢および長期運動習慣の定着に関する生体の生理機能に視点をおき、IWTの有効性についての生理学的メカニズムおよび季節変動におけるヒトの適応能に関する医学・生理学的調査・研究を進めたいと考える。	
総合情報	教授	岡田 朋之	短期 (6カ月)	2022.9.21 ～ 2023.3.20	オーストラリア、アルゼンチン	—	モバイルメディアにおけるデバイスとサービスの参加型デザインの研究、ならびに大規模メディアイベントにおけるデジタルメディアの利活用に関する研究	
社会安全	教授	元吉 忠寛	長期 (1年)	2022.4.1 ～ 2023.3.31	オーストラリア、ニュージーランド	—	オセアニア地域における自然災害やパンデミックに対する人々の認識と対策行動に関する資料収集及び防災行動の促進要因に関する国際比較研究	
	教授	高野 一彦	短期 (6カ月)	2022.9.21 ～ 2023.3.21	ニュージーランド、アメリカ	関西大学、一般財団法人 情報法制研究所、一般社団法人 経営倫理実践研究センター 他	欧米各国の情報法制及び運用実態の調査を行うとともに、企業の情報法コンプライアンスのあり方を探求する。具体的には、2022年10月にニュージーランドで開催予定の Global Privacy Assembly に出席し、また2023年2月にCCPA(カリフォルニア州 消費者プライバシー法)の運用実態調査を行い、わが国の法制度との比較研究を行うとともに、先進企業の情報法コンプライアンス体制に関するヒアリング調査から、実効性のある政策提言を試みる。	

2022年度 学術研究員一覧

所属	資格	氏名	種別	期間	国外研究:主たる目的国	国内研究:主たる研究先	研究概要	備考
システム 理工	准教授	山田 啓介	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	オーストラリア	関西大学 他	構造と音場の連成振動の解析手法の研究 機械・構造物の振動および騒音の低減に関する研究 スマート構造およびエネルギーハーヴェスティングの研究	
	教授	和田 隆宏	短期 (1～3カ月)	2022.7.21 ～ 2022.9.20	フランス	—	「超重元素領域における新しい核分裂現象の研究を中心とする核分裂反応機構の理論的研究」 多次元ランジュバン方程式を用いて核分裂過程を動的に記述し、超重元素領域における新しい核分裂現象 に関する定量的な予言を行うことを目的に、共同研究を行う。	
環境 都市工	被選考者なし							
化学 生命工	准教授	近藤 亮太	長期 (1年)	2022.9.21 ～ 2023.9.20	イギリス、オーストラリア、中国	—	水素の利活用に関する研究の幅を広げ、熱力学観点から有望な貯蔵材料に関する研究を行う。また、水素 化物負極に関する研究手法や分析法について学ぶ。主な材料としてマグネシウムハイドライド系の材料に絞 る。マグネシウムハイドライドはイオン結晶性物質であるため、効率的な電子の授受が達成可能であり、組織制 御を中心に研究を進める。	
	教授	平野 義明	短期 (1～3カ月)	2022.8.1 ～ 2022.9.10	アメリカ	—	Harvard University, David Mooney 研究室に滞在し、組織工学ならびにバイオマテリアルについて研究を行う 予定である。特に各組織の形態形成-材料-材料の機械的特性と細胞の関係について調査・研究を行う。さら に、組織-材料の界面で特定の生物学的反応を引き起こすことができる新しい生体材料の開発についても調 査・研究を行う。Wyss Institute for Biologically Inspired Engineering at Harvard Universityは、大学と企業の 融合により、大学の研究成果の社会還元を積極的に行っている。その手法についても調査する。	
法務	被選考者なし							
会計	被選考者なし							
心理学	被選考者なし							
教育推進	被選考者なし							
国際	被選考者なし							